



第5号 2009年 新春号

●Nakanoshima Clinic 中之島クリニック



通信

編集 中之島クリニック 編集部ひまなこ
〒553-0003 大阪市福島区二丁目1番2号
TEL:06-6451-6100

FAX:06-6451-1234

URL:<http://nakanoshima-clinic.jp>

中之島クリニック 田邊 プレヴォ 智子

大寒のみぎり、皆様にはますます御発展のこととお喜び申し上げます。昨年10月より赴任致しました田邊プレヴォ智子と申します。京都府立医科大学を卒業後、アメリカで12年間、内科臨床を学んで来ました。今回は、私に勇気を与えてくれた「ことば」をご紹介します。

Dr. B - 「僕をアメリカのお父さんだと思って頑張りなさい。」

4年間いたレジデンシーのプログラムを終え、ニューヨークからフィラデルフィアに引っ越す前にレジデンシーディレクターの先生から頂いた「ことば」です。Dr. Bは私がまだ医学生の頃、京都へ観光に来られた時に私の車で京都のお寺をご案内した時からの知り合いでした。クリスマスパーティでは真っ赤な蝶ネクタイをしめてタンゴを披露する茶目っ気のある先生ですが、仕事面では口数の少ない厳しい先生でした。Dr. Bが症例検討会に出席されると全体にピリリと緊張が走ったもので、私も何を質問されるかいつもビクビクしていました。そんな尊敬する先生からの優しいお言葉、感激もひと塩です。やっぱり気にかけて貰っているってうれしいものですね。赤ら顔でサンタさんのようなお腹をしたDr. Bと私の見かけは似ても似つかないけれど、それでも何かがあれば父親のように頼りに出来る人がいるというのは祖国から遠く離れていた私にとってはとても有難いものでした。Dr. Bは最近、ニューヨークの某医学部総長に就任されました。

Dr. W - 「ぼくは面接に来た時に僕の周りの人に横柄な態度を取るような人はどんなに優秀でも絶対にとらない」

Dr. Wはペンシルヴァニア大学の総合内科教室の長として20年近く君臨してきた方で、毎日出勤





してから自分のオフィスのドアを大開にしておくボスでした。エレベーターを降りるとすぐ左手に Dr. W のオフィスがあるのですが、「いるかな」と皆がチラッと左を観るのです。

別に用がある訳でもないのですが、ドアの全開とそこから漏れてくる光が奇妙な安心感を齎したものでした。その先生が、私がフェローシップの二年目の時に人材を採るときのテクニックを教えてくださいました。これもテクニックなんだな、とその時初めて認識したのを覚えています。Dr. W が言うには、面接はまず面接の予約を取った時から始まっているそうです。

Dr. W には長年付き添った秘書の Maureen という女性の方がおり、Maureen はこれまでに何百人の医師や医療研究者と面接の予約のやり取りをして来たのでしょ。Maureen はまさに面接のプロ、彼女の受ける印象は Dr. W の面接の後の印象と同じ位、いやそれ以上に大事だそうです。アメリカでは、日本と違い、個人主義が重視されて協調性の欠如はあまり問題にされないという認識を持っていた私は非常に驚きました。やっぱりそれ位、一緒に働く同僚というのは大事なんですね。

Shannon – 「そんな自分の事を真剣に考えたらあかん。あんたがいんでも世の中回って行くし、自分の事を客観的にみて笑えへんようになったら悲しいで」

こんな関西弁を話せるかはさておき、私の唯一オーストラリア人の友人です。分子生物学の研究者と堅い職業に就いていますが、ビールと good times をこよなく愛する彼女にはフィラデルフィアのゲイバーに連れて行って貰ったり、アイリッシュパブを紹介して貰ったり、一緒に家でカクテルを作ったりと人生を楽しむ術をいろいろ教えて戴きました。

その頃、将来の道を考えめぐねて仕事潰け、自己嫌悪ばかりで毎日忙しくしていた私を観て Shannon はポーンと上記の「ことば」をくれました。まさに目からウロコというのはこう言う事か、という程新鮮に私の心に響きました。彼女が言うのは、一人でどんなに頑張っても社会や世界に貢献できる度合いは鷹が知れている、皆で楽しく団結しながら社会や世界に貢献する方が得られる効果も大きい、だからトモコだけ肩肘張って頑張っても出来る事は知れてるわよ、周りを見なさい、という主旨なのでしょう。Shannon は私より5歳程年下だったのに、この人生観か、と感嘆しました。

アメリカから帰国した次の年には、貯金を貯めて3週間ペルーなど中央アメリカから南アメリカへ旅行し、酸欠状態で鼻血を出しながらマチュピチュの遺跡を見に行ったそうです。様々な種類の人生観に触れられるのは非常に良い事だと思います。

以上、私の人生に多大な影響を与えた3人をご紹介します。自己紹介をする代わりに、私の人格形成に関わってきた人を紹介する事により少しでも私を知っていただけたら、と思います。どうぞこれからも宜しくお願い申し上げます。



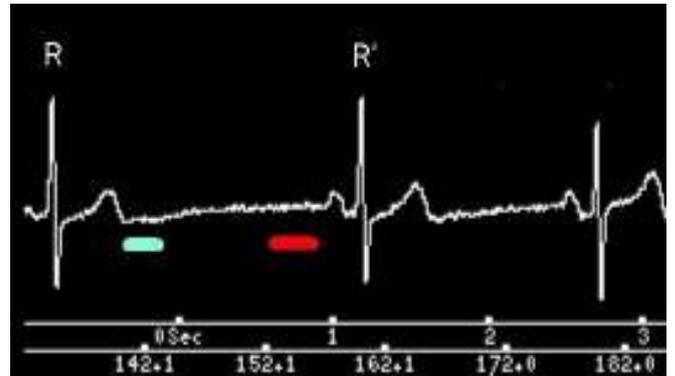


「冠動脈CTAについて」

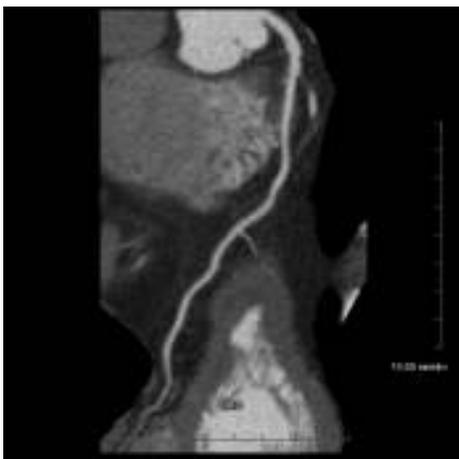
診療放射線技師 東 修平
放射線科部長 岩田政広

冠動脈CTA(CT angiography)とは今までカテーテル検査でしかできなかった冠動脈の評価を、比較的簡便に行うことができる検査です。カテーテル検査に比べると、時間分解能が弱く、モーションアーティファクトが存在し、高度石灰化病変、高度屈曲病変、息止め不良や不整脈症例等において冠動脈描出能が低下するという欠点がありますが、造影CTを使用して患者様への負担を軽減し、低浸襲で評価を行うことができる検査です。

撮影方法、手順については施設、使用装置により様々ですが、当クリニックでの撮影は身長、体重から得られるBMI指数25以上の方には①体脂肪計測を行い、内臓脂蓄積の程度(metabolic syndromeの可能性)を評価します。次に胸部CTを撮影し、②肺野や縦隔病変の有無を評価し、得られた画像をもとに心臓の撮影範囲を決定します。造影剤注入後、リアルタイムで下行大動脈内のCT値を計測し、冠動脈内のCT値がピークに到達するタイミングで撮影します。撮影中は心電図同期を使用してCTデータと共に心電図情報を取得します。得られた心電図をもとに任意の位相データを抽出して画像再構成を行います。心臓の動きが停止しているのが収縮末期、拡張中期であり、当クリニックでは相対値法を採用していて、心電図R-R'間隔で言う45%、75%ぐらいを目安に元画像を作成しています。(場合によっては絶対値法を用いることもあります)



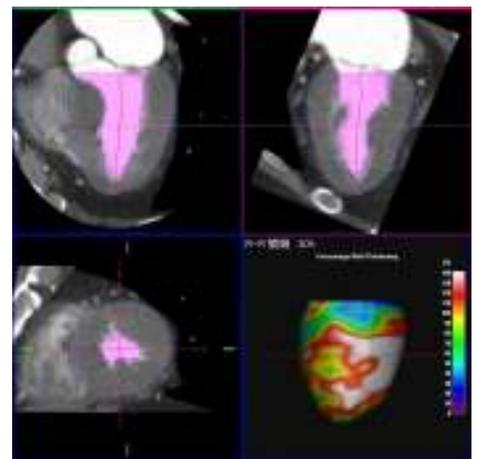
心電図 水色:45% 赤色:75%



CPR



VR



心機能解析

また、本スキャン中に左心耳等に血栓が疑われた場合(心房細動、拡張型心筋症などでみられることがあります)、120秒後に同部位を追加撮影することがあります。

元画像をもとに3D画像処理としてボリュームレンダリング(VR)、CPR(Curved Planar Reconstruction)、場合によってはSlab-MIPを作成、左室容量解析(EF: Ejection Fractionの測定など)と合わせて、③冠動脈の評価(狭窄やプラーク診断など)と④心機能解析を行います。





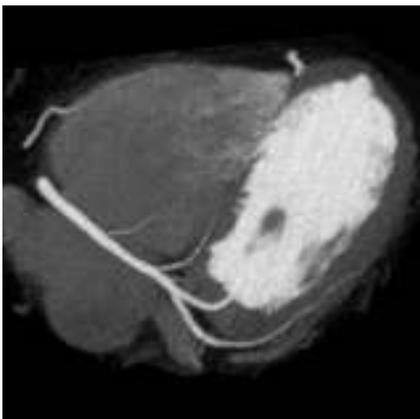
このように非常に多くの情報を得ることができる有用な検査ではありますが、最初に述べたとおり患者様の状態によっては検査施行しても十分な結果が得られない場合がありますので、以下にその具体例を紹介したいと思います。

撮影中に得られた心電図情報から画像再構成を行うので、不整脈、高心拍症例の他に高血圧、肥満等では画質の劣化が出現し、評価が難しくなることがあり、特に不整脈や高心拍症例では画質の劣化が強く出現します。またスキャン速度(X線管球の回転速度)によっては低心拍であっても画質の劣化が見られることがあります。心拍数に関しては β 遮断薬で対処する施設もありますが、副作用リスクの観点から当クリニックでは使用しない方針で撮影しております。

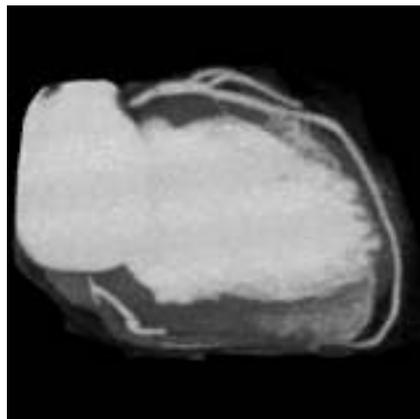
ペースメーカーを使用されている場合、リードからの金属アーチファクトが発生し、この場合も撮影しません。その他に造影剤を使用した検査自体ができない場合として以前にヨード造影剤を使用して副作用が起こった事のある方や、アレルギー、喘息、腎機能低下、甲状腺機能亢進症、褐色細胞腫等があります。

また、呼吸停止下において撮影しますので、息止めができない患者様(認知症、幼児等)では不完全な撮影になりうる場合があります。

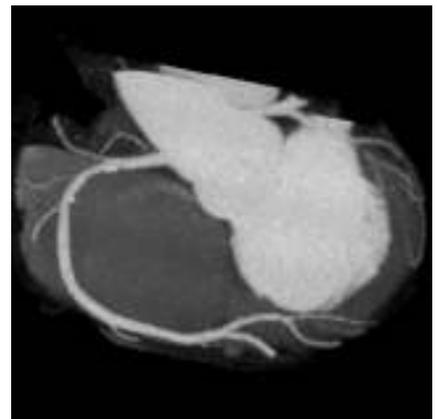
このように検査施行が困難と医師が判断した場合、検査が出来ない場合がありますのでご了承ください。



Slab-MIP(#4)



Slab-MIP(LAD)



Slab-MIP(RCA)

より良い画像診断を、患者さまに有用な情報として提供してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

「編集後記」

年度末の冷え込みが厳しかったためか、年明けの体感温度は昨年よりも暖かいかなと思っていましたが、まだまだ分厚いコートを手放せそうにない日々が続いています。

次号は、空を飛ぶ渡り鳥の群れも次の国へと移動をしたあと、暖かい日差しが差し込むようになった4月中旬に発行予定です。

今後とも、よろしくお願いいたします。

なかやま

※「中之島プチ通信」「コラム」は紙面の都合上休載いたします。(c)b-cures. (C) s-hoshino.com

